

自己点検・評価報告書

点検対象：2022年4月～2023年3月

報告書作成月 2023年6月

一般財団法人日本語教育振興協会

「日本語教育機関のための自己点検・評価チェックリスト」

を参考に点検項目を作成

中央情報専門学校 日本語本科

評価基準

5：達成できている 4：概ね達成できている 3：取り組むべき課題はあるが取り組んでいる
2：できていないことが多い 1：全くできていない

1. 理念・教育目標

評価

1	理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認している。	5
2	理念、教育目標及び育成する人材像が、教職員及び学生に周知されている。	4

学期初めの講師会を定期開催し、「学科教育理念」「前学期の総括・反省」「新学期の目標」について非常勤講師を含めて学科全員で確認を行っている。新型コロナウイルスのため長期休みとなっていた非常勤講師も多かったため、休みの間の変更点についてもよく共有し、方針の統一を行った。また、教育DXをさらに進め、Teams、DropBox を通じた報告体制が確立できた。学生へは、入学後オリエンテーション時に周知しているのみのため、定期的に確認し、指導を継続する必要がある。

2. 学校運営

評価

1	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	4
2	意志決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	4
3	予算編成が適正に行われ、執行ルールが明確である。	4
4	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有する仕組みがある。	5
5	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っている。	5
6	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	4

前年度から学生数が増え、「6」の項目の評価5を維持ができなかった。担任を中心に行ってきたが、一人から出る教務関連、生活指導関連の相談が多く、対応の迅速さに欠けていた部分がある。報告・共有体系はできているため、窓口を分け、適切な対応ができるよう対処していく必要がある。母国語での指導体制は整っており、経費支弁者への情報提供や定期的な報告も行っている。

3. 教育活動の計画

評価

1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	4
2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	5
3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	5
4	教育目標に合致した教材を選定している。	5
5	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	5
6	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	5

学生数が増えたものの、学生のレベルに合わせたクラス分けができ、それぞれクラスの目標を明確にし、適切な進度で進めることができた。N4に力を入れ、学生、教員が同じ目標に向けて授業に臨むことができていた。前年度に行えなかった教員研修も実施ができ、今後継続をしていきたい。

4. 教育活動の実施

評価

1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	5
2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。	5
3	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。	5
4	理解度・到達度の確認を実施期間中に行っている。	4
5	学生の自己評価を把握している。	5

2021 年度同様、授業記録表は DropBox を用いて共有し、すべての教員が毎日欠かさず入力することができている。成果につながった自己評価シートも継続しており、学習者自身が記録をつけることで可視化し、自分を見つめなおす機会を作ることもできた。また、定期的に個人面談を行い、教員間で共有することで、学科全体で学生全員を見る体制が確立できた。

5. 成績判定と授業評価

評価

1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。	4
2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	5
3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	4
4	授業評価を定期的実施している。	5
5	評価態勢、評価方法及び評価基準が的確である。	5
6	学生による授業評価を定期的実施している。	5
7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	5

学生管理システムはすでに構築され、それぞれが情報を更新し、担任のみならず教職員全員で共有・指導ができている。また、ICTを使った、学生による匿名での授業評価は学期ごとに行い、主任教員から各教員に対し個別でフィードバックを行い、課題の共有、改善のための取組みを行っている。新任講師が増えたものの、後期では過去一番の授業評価の結果となった。今後も教員研修を充実させ、さらに授業、教育の質を上げていきたい。

6. 教育活動を担う教職員

評価

1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	4
3	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組みをしている。	5
4	教員及び職員の評価を適切に行っている。	5

授業評価の結果を参考に課題を明確化し、課題解決に必要な知識や能力が身につけられるよう、研修や授業見学を行った。非常勤講師向けに研修内容の希望を調査し、研修を行うことで、教育の質の向上を図っている。授業に必要な ICT に関する予備知識や管理方法なども研修内容に組み込んでいる。今後は外部研修の情報共有や業界時事等にも触れていきたい。

7. 教育成果

評価

1	入学から修了・卒業までの学習成果を記録、保管し、適切に管理している。	5
2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	5
3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	5
4	卒業または修了生の進路を把握している。	5
5	卒業生および修了生の状況を把握するための取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	5

学生情報はシステムやツールを使い、しっかりと管理されている。紙ベースで保管すべきもの、データで保存すべきものの仕分けができ、保管場所についても共有ができています。適正校維持のため、今後も卒業生の学生管理にも力を入れていきたい。管理体系の確立ができていますので、継続して更新・保管していくことが課題である。

8. 学生支援

評価

1	学生支援計画を策定し、支援態勢を整備している。	5
2	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	4
3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている。	5
4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的に行っている。	5
5	住居支援を行っている。	5
6	アルバイトに関する指導及び支援を行っている。	5
7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている。	4
8	危機管理体制を整備している。	5

学籍管理に関しては、学科全体で細かい指導を心掛けており、逐一情報共有を行っている。学生との関係を大切に、アルバイト、住居等の報告・連絡・相談がしやすい環境を整えている。生活指導については担任中心で行ってきたため、今後は授業内に生活指導の時間を設け、定期的に日本のルールを厳しく指導していきたい。寮での生活ルールについても定期的に確認を行い、日本社会で生活できる知識を身につけてもらいたい。

健康診断は定期的実施をしており、通院が必要な学生のフォローも行っている。

月に一度、生活アンケートを行い、アルバイトの情報の記入、通帳の確認をし、担任による管理を続けている。進学時、ビザ更新で不利になる学生が出ないように今後も管理を徹底していきたい。

新型コロナウイルス対策では、毎日検温を実施し、陽性の場合の対応も周知ができていた。また、体調不良で出席停止の学生には毎日体温報告を義務付け、習慣化することができた。

9. 進路に関する支援

評価

1	進路指導担当者を特定している。	5
2	学生の希望する進路を把握している。	5
3	進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	5
4	入学時からの一貫した進路指導を行っている。	5

2022年度は進学年次がいなかったため、外部説明会等はなかったが、定期的な面談により、1年次より進学を意識させ、面談時点での希望進路の把握ができていた。進学に必要な準備が学生に周知出来、早めの動き出しができる準備が整っている。昨年度に引き続き、教室内で資料の閲覧が可能であり、指定校推薦校などの情報提供も行っている。今後はオリエンテーションでも進学の話は今以上に絡め、進学に向けた意識付けを行うことが課題である。

10. 入国・在留に関する指導及び支援

評価

1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている。	4
3	入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。	5
4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	5
5	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	4
6	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	5
7	不法残留者、資格外活動違反、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っている。	4

学生へ常に最新情報を提供するよう心掛け、ルールの大切さなどは生活指導責任者をはじめ担任からも授業内外で指導。遅刻・欠席者への連絡は漏れなく行い、登校時に即指導。情報共有、保存しながら学生の傾向を掴むとともに学生の変化に早めに気づけている。学生指導に関しては今後もさらに細かい対策が必要な項目なので学生が増えても同じレベルを維持したい。申請等取次者は全員保持。

11. 教育環境

評価

1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。	4
2	視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	5
3	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	5
4	法令上必要な設備等を備えている。	5

設備は充実しており、大型ディスプレイによるICT利用授業も可能。プレゼンテーション大会時には、PCの貸し出しも行い使い方も指導。様々な方法での授業が提供できており学生からの評価も高い。この状態を維持し、よりよい環境を整える努力を続けていきたい。

12. 入学者の募集と選考

評価

1	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める人物像、および応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	5
2	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	4
3	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	4
4	入学検定料、入学金、授業料、その他の納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	5

2022 年度もコロナにより現地を赴いての面談はできなかったが、オンラインでの面談や説明会を引き続き行えた。オンライン用の PPT や資料が増えたことで、よりスムーズに実施ができ、顔を見て学生の意欲、日本語力の確認が行えている。募集には一部教員も参加しているため入学後に面識があり、学生に安心感を与える効果も実感する。ホームページの充実、SNS など新たな情報発信方法に力を入れていきたい。

13. 財務

評価

1	財務状況は、中長期的に安定している。	4
2	適正な会計監査が実施されている。	4

事務局により行い、必要な情報は教務よりスムーズに提供ができています。

14. 法令遵守

評価

1	法令遵守に関する担当者を特定している。	5
2	入国管理局、関係官庁、日振協等への届出、報告を遅滞なく行っている。	5

担当者が明確になっており、連絡体系も整備されていることから報告は適切な時期に遅滞なく行えている。報告期限ぎりぎりではなく余裕を持って報告が行えたので、今年度も、余裕を持って行う。

15. 地域貢献・社会貢献

評価

1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	3
---	------------------------------------	---

昨年度もコロナの影響により地域貢献活動への参加や開催がほぼできなかった。今年度からは、学校周辺清掃をはじめ、過去に行っていた活動を復活させ、情勢に合った新たな活動についても検討していきたい。地域貢献を学校全体で行い、周辺地域との連携を図っていきたい。